

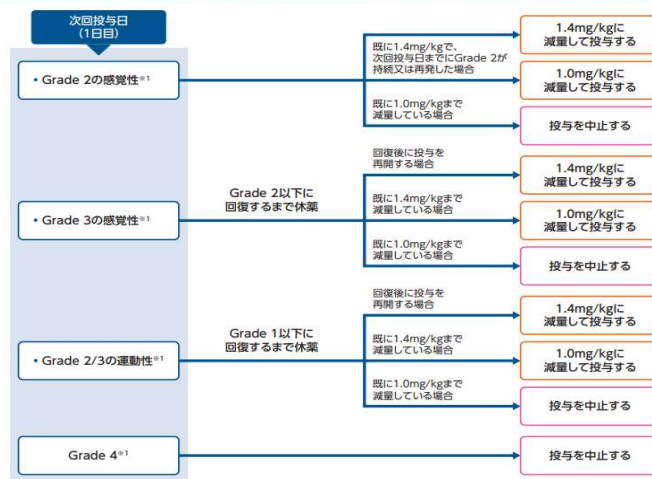
レジメン登録フォーマット

申請年月日	令和4年9月5日		使用開始日		
登録診療科	血液内科		申請医師	松永 一美	
レジメン名	ボライビー+R-CHP【末梢性ニューロパチー2段階】(2～6コース目)				
疾患名	非ホジキンリンパ腫		適応の備考	未治療のDLBCL	
適応分類					
1コース日数	21	日間	総コース数	5	コース
抗がん剤投与量・投与日	リツキシマブ375mg/m ² 、ボライビー1.0mg/kg、ドキシソルピシン50mg/m ² 、エンドキサン750mg/m ² 各day1、プレドニン錠100mg/body day1-5				
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)	(day)				
投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●
	点滴静注	ブライミング用	/		
2	主ルート	生食500mL	0.675 本 / m ²		●
	点滴静注	リツキシマブ注	375 mg / m ²	下記	●
10倍に希釈する。					
3	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●
	点滴静注		/		
4	主ルート	5%糖液100mL	0.4 本 / body		●
	点滴静注	ボライビー点滴静注用	1.0 mg / kg	90 分	●
	点滴静注	注射用水100mL	1 本 / body		●
	IVにつき140mgは7.2mL、30mgは1.8mLの注射用水で溶解 ◆希釈液量体重規定あり◆ 30kg～124kgの間は輸液量の調整不要 投与速度は1回目90分、2回目以降30分可。				
5	主ルート	グラニセトロン注バッグ1mg/50mL	1 本 / body	30 分	●
	点滴静注		/		
6	主ルート	生食100mL	1 本 / body		●
	点滴静注	ドキシソルピシン注	50 mg / m ²	30 分	●
	総投与量は500mg/m ² まで。				
7	主ルート	生食500mL	1 本 / body		●
	点滴静注	エンドキサン注	750 mg / m ²	2 時間	●
	閉鎖式システム使用				
8	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●
	点滴静注		/		
	経口投与	ボララミン錠2mg	1-3 錠 / body		●
	経口投与	ジクロフェナクNa錠25mg	1 錠 / body		●
リツキシマブ投与の30分前					
	経口投与	プレドニン錠5mg	20 錠 / body		● ● ● ● ●
	経口投与		/		
医師の指示通り					

【投与上の注意】

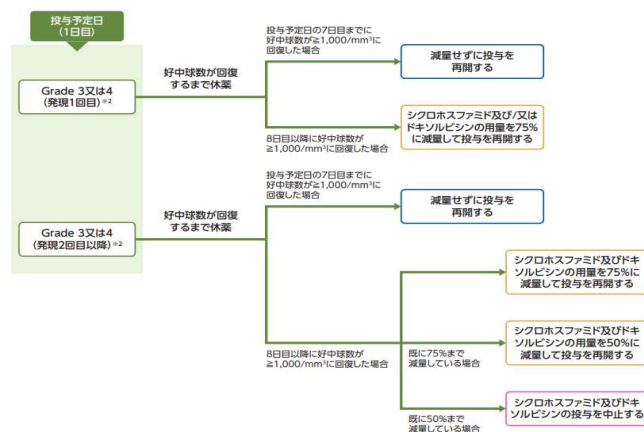
- ・プレドニン錠を服用するので、中等度催吐性に基づくデキサメタゾンの投与はしないこととする。
- リツキシマブ：前投薬としてボララミン(2)1～3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
- リツキシマブ：初回はECGモニターをつける。
- リツキシマブ：投与速度 初回は50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで。
- リツキシマブ：投与速度 2回目以降は、医師の指示により、投与方法①、②から選択
- 投与方法①：初回投与時に発現した副作用が軽微な場合、100mL/hで開始、30分毎に100mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで。
- 投与方法②：臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/ μ L未満の場合、最初の30分で投与量の20%を投与、残り60分で投与量の80%を投与(90分間で投与)。
- ボライビー：前投薬としてボララミン(2)1～3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
- ボライビー：0.2または0.22 μ mのインラインフィルターを使用して投与する。
- ボライビー：投与速度は1回目90分、2回目以降は30分まで短縮可。
- ボライビー：Grade1又は2のinfusion reaction発現時はGrade1又はベースラインに回復するまで休薬又は投与速度を下げる。症状回復時には元の投与速度で再開可。
- ボライビー：Grade3のinfusion reaction発現時はGrade1又はベースラインに回復するまで休薬する。症状回復時には休薬前の投与速度の1/2の投与速度で再開可。
- 再開後infusion reactionが認められない場合には、投与速度を30分ごとに50mg/hずつ上げることができる。
- ボライビー：希釈後の濃度が0.72mg/mLから2.7mg/mLになるように希釈する。 体重30kg未満の場合は30mLに、124kg以上の場合100mLに希釈する。
- ボライビー：調製後は激しい振動を加えないこと(抗体タンパクが凝集するおそれがあるため)。
- ボライビー：投与後は30分以上経過観察すること。
- ボライビー：調製後の安定性は、生食で4時間、5%糖液で8時間。

ボライビー+R-CHP療法で末梢性ニューロパシーが発現した場合の休薬、減量、中止の基準



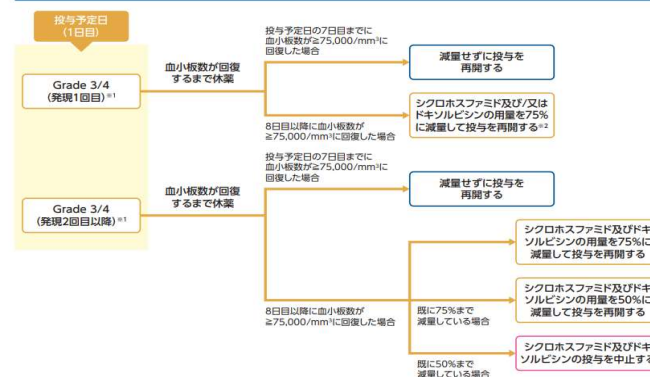
※1：Gradeは NCI-CTCAE v4.03に準じる。

参考：POLARIX試験においてボライビー+R-CHP療法で好中球減少が発現した場合の休薬、減量、中止の基準



※2：GradeはNCI-CTCAE v4.0に準じる。

参考：POLARIX試験においてボライビー+R-CHP療法で血小板減少が発現した場合の休薬、減量、中止の基準



血小板減少が発現した場合の休薬等の基準



※1：GradeはNCI-CTCAE v4.03に準じる。